

当期はもうかった？

～ 決算 1 ～

講師
粕谷和生

今回から2回にわたり決算を学びます。今回は決算手続きの中で特に重要な「振り替え」の意味と振替仕訳について学習します。振り替えとは「ある勘定の金額を他の勘定に移すこと」です。ここで、振り替えのイメージがつかめたら、次に振替仕訳を考えます。今回の学習内容がしっかり理解できれば、次回は容易に進むことができます。

調べておこう・覚えておこう

収益／費用／
損益法／当期純利益

決算の意味

決算日（期末）に当期純利益を計算して総勘定元帳などの帳簿を締め切り、損益計算書や貸借対照表を作成する一連の手続きを決算といいます。一連の決算手続きの中で中心的な手続きは「総勘定元帳（すべての勘定口座を集めた帳簿）の締め切り」です。

総勘定元帳の締め切り手順は、次のとおりです。

- 手順① 収益の各勘定の残高を損益勘定に振り替える。
- 手順② 費用の各勘定の残高を損益勘定に振り替える。
- 手順③ 当期純損益を資本金勘定に振り替える。
- 手順④ 収益・費用の各勘定と損益勘定を締め切る。
- 手順⑤ 資産・負債・資本の各勘定を締め切る。

上記の手続き①～③の「振り替え」を理解するのが、今回の学習です。

Key Word：振り替え

ポイント 振り替えとは「ある勘定の金額を他の勘定に移すこと」

収益・費用を損益勘定に集合

当期純損益を計算するために設ける勘定を「損益勘定」といいます。上記の手順①により、収益の各勘定の残高を損益勘定の貸方に移動させ、手順②により費用の各勘定の残高を損益勘定の借方に移動させます。このときの移動が「振り替え」です。このように損益勘定には、収益と費用の各勘定が移動（集合）してくるので、損益勘定は「集合勘定」と呼ばれます。

手順①、②により損益勘定の借方には費用総額が、貸方には収益総額が記入されます。その結果、損益勘定の貸借差額（借方合計と貸方合計の差額・残高）は当期純損益を示します。これは、損益勘定の上で損益法の計算（収益－費用＝当期純損益）を行ったことになります。

Key Word：集合勘定

ポイント 損益勘定の上で損益法の計算を行い、当期純損益を計算する。

集合するには振替

「振り替え」をしっかり理解しましょう。番組では、商品売買益勘定の残高 200 円の損益勘定への振り替えをわかりやすく解説していきます。

損 益	商品売買益
	200



振替元の商品売買益勘定を空（ゼロ）にするためには、商品売買益勘定の借方に 200 円を記入します。そして、その 200 円を振替先の損益勘定の貸方に記入すると、商品売買益勘定から損益勘定に 200 円が移動したことになります。これを仕訳で表せば次のようになります。この仕訳を「振替仕訳」といいます。

(借) 商品売買益 200 (貸) 損 益 200

振替仕訳を勘定口座に転記すると商品売買益勘定の残高 200 円が損益勘定に移動し（振り替えられ）ます。商品売買益勘定の残高がゼロになっていることを確認しましょう。

損 益	商品売買益
200	200 200

問 下記の収益の各勘定（商品売買益、受取手数料）の残高を損益勘定に振り替える仕訳を示し、各勘定に転記しなさい。ただし、決算日を 5 月 31 日とする。

【振替仕訳】 (借) _____ (貸) _____

【転記】

損 益					
商品売買益					
	5/1	諸	口		120,000
	10	現	金		65,000
	24	現	金		80,000
受取手数料					
	5/15	現	金		5,000

